

南郷 山の楽校

八戸市南郷区にある『山の楽校』(青葉湖展望交流施設)は、廃校になった昔の木造校舎で地域の方々が自然の遊び方や暮らしの知恵を教えてくれる楽しい学校です。よもぎ餅(草餅)・豆腐・味噌を作ったり、石鹼や布編みスリッパを作ったり、炭焼きをしたりと田舎暮らしの様々な体験メニューがあります。(とても書ききれません^_^;)短時間で気軽にできるものも多く、参加してみたいものばかりです。おススメは、1時間ほどでできる「そば打ち体験」。おばあちゃん達とおしゃべりをしながら、自分で打って食べるお蕎麦は格別です。そば作りを極めたいという方には、「そば人養成楽校」という長期コースがあります。昔ながらの方法で苗植え・刈り取り・天日乾燥・脱穀・石臼で引いて粉にして「そば作り」をします。そば打ちは毎回するので講座が終わる頃にはマスターできるそうですよ。

夏になると、校舎裏の畑にそばの白い花と60万本以上のひまわりが咲き誇り、一面、白と黄色に染まります。そば・ひまわりの花見も素敵ですね♪ (橋本)



大鰐温泉

大鰐(おおわに)温泉は、神経痛・筋肉痛・関節痛によく効き、昔から湯治場として利用されています。この地に温泉が出来たのは約800年前。その当時、東国を行脚していた円智上人によって発見されました。その時のお話が、今でも伝説として残されています。

行脚中に、円智上人は重い病にかかってしまい、何日も床に伏せていました。ある日、童子が夢枕に立ち、「この地に温泉地あり。土用丑の日、丑の刻に温泉に入ると病が治る」とお告げを授かりました。その通りにしてみると、患っていた病が不思議と治ったそうです。

それ以来、大鰐町ではこの伝説にちなんで、毎年7月、土用の丑の日に“丑湯まつり”を行い、無病息災を祈っています。

小説家 太宰治の両親も湯治で通った大鰐温泉。町に9つある共同浴場は、200円程度で入ることができるので、お財布にもやさしいですね。

この夏は、津軽の奥座敷・大鰐温泉へ、疲れた体を癒しにきませんか。(村木)



在来津軽唐辛子 「清水森ナンバ」

室町時代に初代津軽藩主、津軽為信公が京都から持ち帰り広められたと伝えられる唐辛子

「清水森ナンバ」。(ナンバとは津軽弁で唐辛子のこと)



以降、弘前市の清水森地区を中心にナンバの栽培が盛んになり、一時は一大産地として名を馳せていましたが、安価な輸入物に押され生産者が1名にまで激減してしまいました。

「清水森ナンバ」は大ぶりで肩が張り、他の品種と比べ糖分が多く、適度な辛味の中にある、まろやかな甘みと豊かな風味が特徴です。

また、ビタミンA、C、Eも豊富に含まれています。そんな伝統野菜を守ろうと地元の有志達が研究会を結成し、良品生産、ブランド化が進められている、今注目の唐辛子なのです。(田名部)



第42号
平成24年6月

か
く
の
や
便
り

「お客様のお声をお聞かせください」
この紙面や八戸情報に対するお便りの他、「〇〇おいしかったよ。」「こんな食べ方が美味しい」といった商品に対するお便りなど、なんでも結構です。お寄せいただいたお客様の喜びの声、ご意見を元に、商品やサービスの向上に反映させていきたいと思っております。
※今後、味の加久の屋からの情報をご不要という方は、お手数でも、ダイレクトメールの封筒を、同封の返信用封筒にお入れになり、ご返送ください。